

ほうきょう ブナの豊凶 ブナ (学名: *Fagus crenata*) [ブナ科ブナ属]



▲ブナの種子(豊作年)



▲種子の生産状況を調査するためのシードトラップ

今年に入り、会津地方各地でクマの出没情報がでていますが、その背景にブナの種子生産の豊凶(豊作と凶作)が関係していることが指摘されています。

ブナの種子生産は、種子を多く作る年と極めて少ない年を1年ごとに繰り返す典型的な隔年結実(かくねんけつじつ)です。そして、3年～8年に1度、特に多くの種子をつける大豊作の年があり、その翌年は、全く種子をつけない凶作の年となります。

何故、ブナは、毎年種子を付けることをせずに、大豊作の年を3～8年に1回作るのでしょうか？

ブナの豊凶には、ブナの種子を好んで食べるネズミなどの小動物や昆虫と関係があると考えられています。

もし、ブナが毎年同じように種子を付ければ、食害者となる小動物や昆虫が増加し、子孫を残すことが難しくなります。そこでブナは、種子をつけない凶作年を作る事で、食害者となる小動物や昆虫の密度を下げ、「豊作年に食べきれないほどの種子をつけて子孫を残す」という戦略をとっているのです。

それでは、ブナの種子生産とツキノワグマの出没は、どのように関係しているのでしょうか？

ツキノワグマは、冬眠前の栄養を蓄えるために、脂肪分の高いブナやコナラ、ミズナラなどの種子を大量に食べます。特にブナの種子は、脂肪分が極めて高いため好んで食べられますが、毎年実を付けるわけではありません。奥山でこれらの堅果(けんか)が不作だと、ツキノワグマは十分な栄養を蓄えられないため、人里にあるクリやカキなどを求めて人家周辺に出没します。

只見町では、2012年にクマの大量出没が起りましたが、前年の2011年は、ブナの大豊作の年にあたるため、2012年は、ブナの種子が生産されない凶作年になりました。さらに、コナラやミズナラが不作であったため、クマの大量出没につながったと考えられます。

このことから、ブナの種子の豊凶を見ることによって、ある程度ツキノワグマの出没状況を予測することができます。

2013年の会津地方は、ブナの豊作年であったため、今年は、ブナの種子が少ない年にあたります。そのため、2012年ほどではないにしても、ツキノワグマが出没すると考えられていますが、果たして予測は当たるのでしょうか？

公開講演会

「生物の多様性について語ろう！」

10月11日(土)午後3時～午後5時15分

場所:朝日振興センター/入場無料 お誘い合わせの上是非ご参加ください。

企画展示

「只見の天然資源とその利用」

期間 10月25日(土)～12月28日(日)

猪又かじ子写真教室

「秋の布沢集落を撮る」

10月26日(日)午前9時30分～午後3時

ブナセンター講座

「古民家解体から見えてくるもの」

11月8日(土)午後1時30分～午後3時

講師 奥敬一氏(富山大学芸術文化学部准教授)

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください